

U.S. Indicators

発表日: 2019年6月14日(金)

米国 19年5月小売売上高は勢いを増した

～拡大モメンタムは05年12月以来の強さ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
18/05	+1.1	(+6.2)	+1.2	+0.6	+0.6	▲1.9	▲1.4	+1.1	+2.7	+2.7
18/06	+0.4	(+6.1)	+0.5	+0.1	+0.1	+0.6	+1.0	+0.3	▲1.2	+1.0
18/07	+0.6	(+6.6)	+0.8	+0.1	+0.0	+0.5	+0.1	+0.7	+1.6	+0.4
18/08	▲0.1	(+6.4)	+0.1	▲0.4	▲0.7	▲1.1	+0.0	+0.1	▲3.0	+1.6
18/09	▲0.2	(+4.0)	▲0.3	+0.0	▲0.0	+0.5	▲1.2	▲0.1	+0.7	▲1.3
18/10	+1.0	(+4.6)	+0.8	+1.3	+1.6	▲0.9	▲0.0	+1.0	+1.1	+4.2
18/11	▲0.0	(+4.0)	▲0.1	▲0.1	+0.3	▲0.8	▲1.0	+0.1	+0.2	▲4.2
18/12	▲1.6	(+1.6)	▲2.1	+0.1	+0.4	▲1.3	▲1.2	▲2.8	▲1.3	▲5.9
19/01	+0.8	(+2.9)	+1.4	▲0.2	▲1.8	+0.4	+0.5	+1.4	▲0.9	▲1.7
19/02	▲0.3	(+2.1)	▲0.3	▲1.4	▲0.2	+0.1	▲1.6	+0.2	▲1.4	+3.6
19/03	+1.8	(+3.8)	+1.4	+2.4	+3.2	+1.9	+1.2	+1.6	+2.1	+3.6
19/04	+0.3	(+3.7)	+0.5	▲0.5	▲0.5	+0.6	▲1.3	+0.7	▲0.2	+2.1
19/05	+0.5	(+3.2)	+0.5	+0.6	+0.7	+0.1	+1.1	+0.5	+0.0	+0.3

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

19年5月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.5%(前月同+0.3%)と市場予想中央値の同+0.6%を下回ったものの、3、4月合計で0.6%p上方改定されており、実態は市場予想よりもかなり強い。5月の小売売上高は、ガソリン価格の下落による価格面での下押し圧力の強まるなか、雇用・所得の増加傾向、株価・不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの高水準での安定などに支えられ、堅調さを維持した。また、4月の速報段階での下振れも、5月の上昇、4月の上方改定など想定通り一時的な動きだったことが確認された。

業態別では、食品・飲料、その他小売が減少に転じたほか、家具、ガソリンスタンドは鈍化した。一方、自動車・同部品、家電、建設資材が増加に転じたうえ、スポーツ用品・本・趣味用品、薬局、通信販売、飲食店が加速した。また、百貨店など一般小売は鈍化したが高い伸びを維持した。さらに、衣料品が横ばいとなった。

5月の小売売上高の前月比(+0.55%)の寄与度をみると、押し下げ寄与となった業態は、その他小売(▲0.03%)、食品・飲料(▲0.01%)にとどまった。一方、押し上げ寄与となった業態では、通信販売が+0.17%、自動車・同部品が+0.15%と大幅な押し上げ要因となった。さらに、百貨店を含む一般小売が+0.08%、飲食店が+0.08%、ガソリンスタンドが+0.03%、薬局が+0.03%、家電が+0.02%、スポーツ用品・本・趣味用品が+0.01%、建設資材が+0.01%と続いた。家具、衣料品は0.00%。

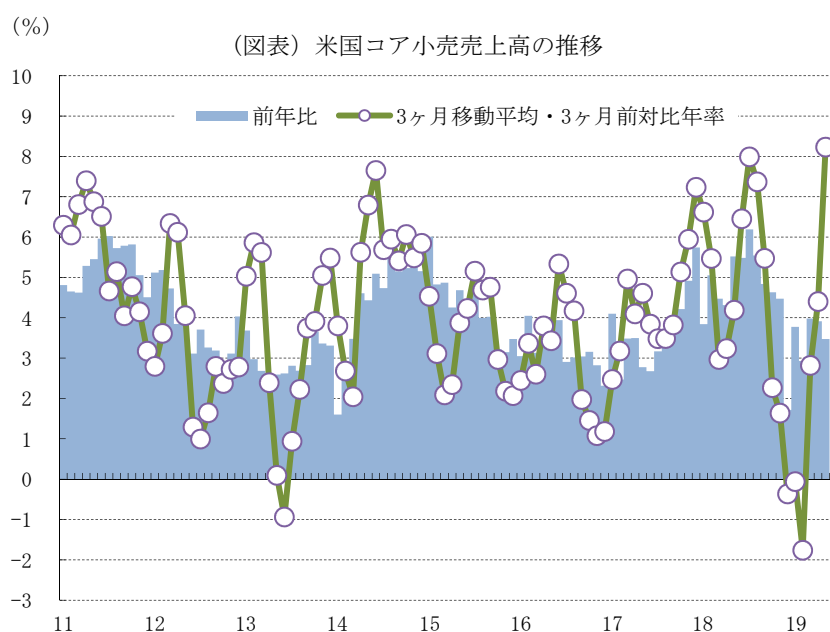
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.5%(前月同+0.5%)と市場予想の同+0.4%を上回ったうえ、3、4月合計で0.5%p上方改定された。業態別では、食品・飲料、その他小売が減少に転じたほか、家具、ガソリンスタンドは鈍化した。一方、家電、建設資材が増加に転

じたうえ、スポーツ用品・本・趣味用品、薬局、通信販売、飲食店が加速した。また、百貨店など一般小売が鈍化も高い伸びを維持した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.5%（前月同+0.4%）と加速したうえ、3、4月合計で0.5%p上方修正された。家電が増加に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品、薬局、通信販売、飲食店が加速、百貨店など一般小売は鈍化したものの高い伸びを維持した。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で見ると、5月のコア小売売上高は+8.2%（前月+4.4%）と05年12月の8.4%以来、13年5か月ぶりの高い伸びとなり、拡大モメンタムを強めた。また、4、5月平均では1-3月期比年率+5.6%と1-3月期の前期比年率+2.8%（2次改定+2.7%）から大幅に加速しており、小売売上高は拡大ペースを速めている。

実質個人消費は、1-3月期に政府機関の一部閉鎖、悪天候などの一時的な要因によって前期比年率+1.3%に減速したものの、4-6月期に雇用・所得の拡大が続くなか一時的な要因の剥落によって前期比年率+3%程度に拡大ペースを速めるとの予想を維持する。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。